

HIS、文化庁主催の展示を企画 「日本の万国博覧会 1970-2025+描かれた未来と夢」

株式会社エイチ・アイ・エス（本社：東京都港区 以下、HIS）は、2026年2月28日（土）～3月15日（日）の期間、文化庁国立近現代建築資料館（東京都文京区）にて開催する「日本の万国博覧会 1970-2025+描かれた未来と夢」に、展示企画として参画します。



HIS は、2025年9月9日（火）～14日（日）の期間、大阪・関西万博 EXPO メッセ「WASSE」において、文化庁主催の建築文化イベント「建築文化と循環経済の未来～この子たちなら大丈夫～」の企画・運営を受託しました。本催事は、日本の建築文化を通じて、次世代を担う子どもたちが自らの創造力でカーボンニュートラルな未来社会をデザインする経験を得ることを目的として実施されたものです。このたび、大阪・関西万博から継承される「未来への願い」をより広く伝えるべく、この催事の成果を巡回展示する本展を企画し、次世代への文化継承と未来創造に焦点を当てた展示構成を担います。

■ 開催概要

催事名称：日本の万国博覧会 1970-2025+描かれた未来と夢 <https://nama.bunka.go.jp>

会期：2026年2月28日（土）～3月15日（日）

会場：文化庁国立近現代建築資料館

主催：文化庁

共催：特定非営利活動法人子供地球基金

企画：HIS

入館方法：展覧会のみ観覧（平日のみ可）湯島地方合同庁舎正門より入館。無料。旧岩崎邸庭園への入場は不可。

旧岩崎邸庭園と同時観覧（土日祝、及び平日）都立岩崎邸庭園より入館。要入園料（一般 400 円）

■ 展示構成

【セクションⅠ】「日本の万国博覧会 1970-2005」—1970 年大阪万博の熱狂と希望、これまでの日本の万国博覧会の軌跡

2025年3月～8月に文化庁国立近現代建築資料館で開催の「日本の万国博覧会 1970-2005」で展示した、大阪・関西万博以前に日本国内で開催された5回の万国博覧会の解説パネルや案内図、航空写真、図面の一部を再掲示します。

【セクションⅡ】いのち輝く現代。2025 年大阪・関西万博の創造

2025年大阪・関西万博における建築と空間構成に焦点をあて、3種類のコンテンツを展示します。文化庁催事「建築文化と循環経済の未来～この子たちなら大丈夫～」で上映された、大屋根リング、シグネチャーパビリオン、休憩所、トイレ、サテライトスタジオ等の設計図を再上映し、公益財団法人2025年日本国際博覧会協会が管理する一部のパビリオン、仮設建築物の設計図を展示します。配置の展示ケースを会場のシンボル「木造の大屋根リング」に見立て、会場写真を展示します。

【セクションⅢ】子どもたちが描く未来の建築と夢

2025年大阪・関西万博の文化庁催事「建築文化と循環経済の未来～この子たちなら大丈夫～」にて制作された作品を展示します。ひときわ目を引く10mの大作は、ロサンゼルス在住の志村星氏とシュローミ・J・ハウン氏が描いた未来都市のアウトラインに、約100人の子どもたちが色をのせることで完成した作品です。さらに、子どもたちが描いた約40点の絵画を、色彩豊かなインスタレーションで知られる現代美術家の鬼頭健吾が展示監修。独自の視点で配置された作品群には、「未来の街」への子どもたち一人ひとりの想いが込められています。子どもたちと日米3名のアーティストとのコラボレーションを通して、希望に満ちた未来を展望します。また、当催事で実施されたワークショップの映像をロビーで上映しています。